No. 1

学校名	寝屋川市立第十中学校
学年	三年 二組
氏名	小林 真人
ふりがな	こばやし まさと

題名 あたり前

その時、日本には台風が接近していた。テレビをつけると、台風関連のニュースばかりが放送されていた。

僕の家はマンションだ。台風が来る前日、ベランダにある物干しが風で倒れないように部屋の中に入れた。翌日、風は強く吹いていた。気象庁の信頼できる台風情報や毎日の天気予報があるから、安全で安心できる暮らしができているのだと思った。

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

気象庁は税金で運営されている。調べてみると、今年度の予算は約五六五億円だそうだ。国民一人あたり五〇〇円弱で、喫茶店で飲むコーヒー一杯の値段とほぼ同じなので、「コーヒー予算」と言われているそうだ。気象庁は他にも、火山の噴火警報や緊急地震速報など、たくさんの情報を発表している。僕は、国全体の予算では一〇〇兆円を超えているので、気象庁も余裕があるのではないかと思っていたが、与えられた予算の中でやりくりさ

作品番号	1	2	3	4	合計
337 1856					

中学生の「税についての作文」原稿用紙

A4 20×20

れていることを知って驚いた。

税金を使って行われる公共サービスは気象のほかに警察、消防、教育、ゴミ処理など様々な分野のものがある。これらの共通点はなくてはならないものだということだ。僕は公立の中学校に通っている。一年間の教育費は一人あたり約一〇九万円かかっているそうだ。もし税の制度がなくなれば、この大金を自分で払わなければいけない。さらにゴミ処理の費用も必要になり、緊急地震速報も有料サービスになってしまったら、逃げ遅れる人もいるかもしれない。熱中症で家族が倒れても、多額の費用がかかり救急車を呼べないかもしれない。あたり前のことができなくなる怖さを感じた。そして、人口が多く利益を得られる都市部が重視されて、地域での格差も生じてしまうかもしれないと思った。

気象庁の仕事は大事だと、この台風を通して感じた。コーヒー予算の中でも予報の質が落ちていないのは、すごいと思った。そして、

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

教科書代や学校に行くための費用も税金によって、無償になっている。だから、僕も負担なく学校に通えている。

あと数年すると、僕は大人になる。大人になるということは納税者になることだ。今まで支えてもらう側だったが、今度は支える側になる。僕が納税する頃には、少子高齢化の影響で今よりも増税が行われているかもしれない。でも、納税したいと思う。なぜなら、僕が学校に通えたのは大人の方達の納税があったからだ。次は自分が子供達や高齢者の方を支えたいと思った。

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁

税について考えて、「見えない絆」を感じた。支え合うことで社会がつくられているような気がした。僕は今日も天気予報を見る。